

数学分野の学術情報組織化をめぐる

近年の研究状況 — 要約

山本 純恭 (東京理大・理)

近年、情報処理や通信手段の普及に即応した新しい学術情報システムの構築を目指す動きに参加し、あるいは実際にとよめる研究者が急増している。この現象は研究の主題分野によって緩急の差があるにしても、数学の分野も決して圏外ではない。この短期共同の研究集会がこの研究所において現実のものとして開かれたことや、筆者が標記の題目での講演を担当することとなったことなどは、時代のさう勢とでもいふべきだろうが、

この報告では、近年わが国では

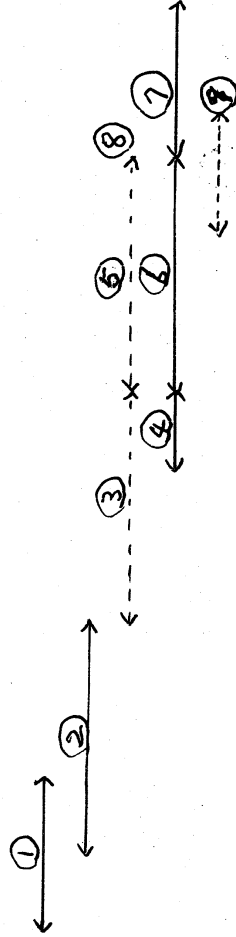
- (1) 数学分野でどのような研究活動が組織化をめぐって行われてきたか、また、
- (2) 関連する情報処理手段の普及をめぐってどのような研究活動が行われてきたか、および、
- (3) 学術会議数学研究連絡委員会ではこの問題にどのような関与してきたか、

19 年 度

2

63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81

数学分野の学術的発展
の活動と関連する研究活動
(読研参加)



当研究会 山崎

6 7 8 9 10 11 12

数研連への文庫刊行希望を申し込む

(主眼項目) (主要項目)

(主眼項目)

(非公刊)

(主要項目)

(文庫刊行希望を申し込む)

アチル数学会

MOS → IMP

?

について時間軸上に年表的にまとめたものが図1である。なお図中の①～⑧は下記の通りである。(必ずしも完全でない)。

- ① 「計算機による情報検索および数理科学分野における科学情報伝達の調査研究」 試験研究(1) 1969～70 代表者 古屋 茂
- ② 「学術情報処理に関する基礎的研究」 特許研究 1970～72 代表者 森口 繁一
- ③ 「広域大量情報の高次処理」 特許研究 1973～75 代表者 島内 武彦
- ④ 「数学関係の文献検索システム(広域方式)の開発」 試験研究(2) 1975 代表者 山本 純恭
- ⑤ 「情報システムの形成過程と学術情報の組織化」 特許研究 1976～78 代表者 猪俣 博
- ⑥ 「情報システムの形成過程と学術情報の組織化」
「数学クラスター1年次報告書」 昭和52年3月 代表者 山本 純恭
「数学クラスター2年次・3年次報告書」 昭和54年3月 代表者 山本 純恭
- ⑦ 「数学分野の学術情報組織化の研究」 試験研究(1) 1979～80 代表者 山本 純恭
- ⑧ 「学術情報システム計画」 特許研究 情報システムの

形成過程と学術情報の組織化 総研班報告17 昭和54年
11月 (特に5.3.7.3. 数学分野の情報システム計画案
分地者 山本 純恭)

⑨ 「今後における学術情報システムの在り方について」文
部省学術審議会 答申 昭和55年1月

この年表の上にはアメリカ数学会の動向を重ね、日本数学界
の学術会域研究座長委員会における活動をあわせて考察する
と興味深い。なお、情報処理手帳の発達とくにデイス、記憶
装置の容量価格比の年次変化、計算機のパフォーマンス比の
変遷を重ねて考察することは意義深いことと思われる。